日比野克彦展「明後日のアート」

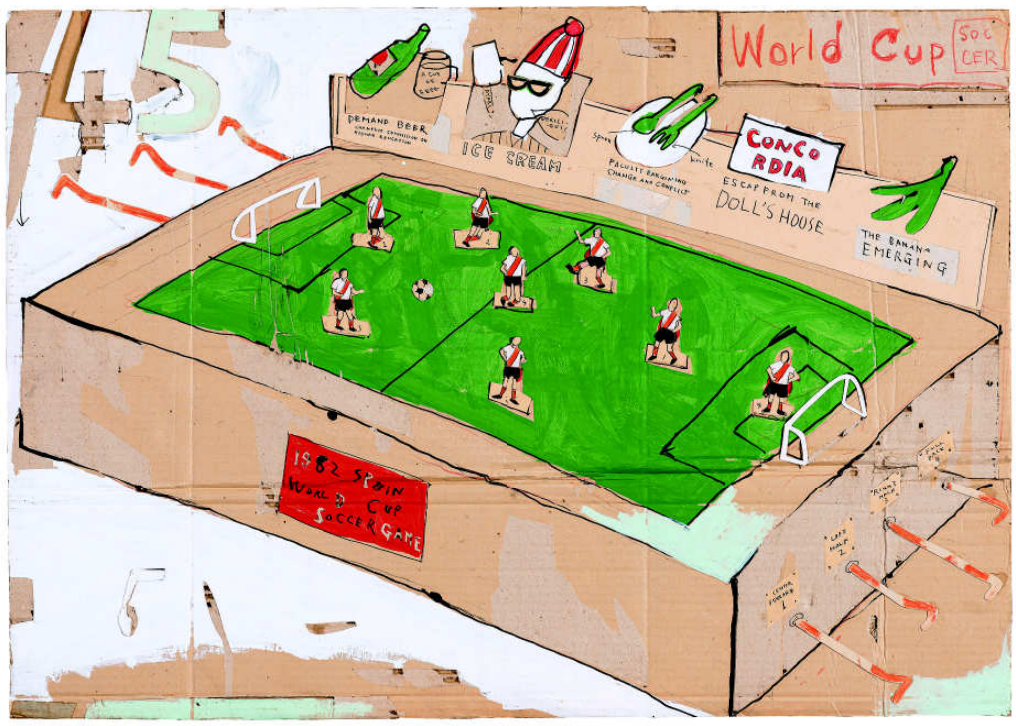
休館日＝月曜日（9月20日は開館）、9月21日［火］　開館時間＝10:00–17:00（入場は16:30まで）

観覧料＝一般1000〈800〉円、大学・高校生600〈400〉円、中学・小学生200〈100〉円　※〈〉内は20名以上の団体料金

主催：姫路市立美術館　共催：書寫山圓教寺、兵庫県立いえしま自然体験センター

特別協力：東京藝術大学日比野研究室、岐阜県美術館、HIBINO SPECIAL　協力：株式会社ムラヤマ、レンゴー株式会社、トライウォールジャパン株式会社

後援：朝日新聞姫路支局、神戸新聞社、産経新聞社神戸総局、サンテレビジョン、播磨時報社、播磨リビング新聞社、
姫路ケーブルテレビ、姫路シティFM21、毎日新聞姫路支局、読売新聞姫路支局、ラジオ関西　（五十音順）



日比野克彦《PRESENT SOCCER 1982年 岐阜県美術館

日比野克彦《部屋番号はいくつですか、とインターホンで聞いて下さい。》1999年 作家蔵

日比野克彦展「明後日のアート」

2021.9.18(土)→11.7(日)

姫路市立美術館 企画展示室

左から《No.63 Kanazawa》、《No.94 Dazaifu》、《No.12 Azamihira》（日比野克彦『明後日の種』より）2007年 金沢21世紀美術館（撮影：木奥恵三）

企画制作：日比野克彦《TANeFUNe》2012年〜

明後日のアートの学校→町も海も山も寺も城も人もつながるプロジェクト

2021.4.27(火)→2022.3.31(木)

日比野克彦 イン・レジデンス ＠書寫山圓教寺
「明後日のアートの学校」

イベントの内容等は「明後日のアートの学校」公式HP（下記QRコード）をご確認ください。

主催：姫路市立美術館、書寫山圓教寺、兵庫県立いえしま自然体験センター

特別協力：東京藝術大学日比野研究室、株式会社ムラヤマ、有限会社播磨社寺工務店、植木屋 後田、ASハリマアルビオン株式会社、姫路大学、ユニバーサルスポーツネットJAM

協力：姫路市立美術館友の会

オールひめじ・アーツ＆ライフ・プロジェクト
All Himeji Arts & Life Project

文化庁　令和3年度 文化庁 文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業

姫路市立美術館
Himeji City Museum of Art

お問合せ：姫路市立美術館　〒670-0012 兵庫県姫路市本町68-25
TEL 079-222-2288　https://www.city.himeji.lg.jp/art/
最新の情報は姫路市立美術館公式HPにてご確認ください。

日比野克彦展「明後日のアート」

左上：日比野克彦《白い塊のすくいシャベル》1991年 作家蔵
左下：日比野克彦《WEDDING CAKE》1980年 岐阜県美術館
右上：日比野克彦《SWEATY JACKET》1982年 岐阜県美術館
右下：日比野克彦《エル》1994年 作家蔵

あらゆる垣根を超えて、地域と地域、人と人がつながる
アートプロジェクトを展開し、国際的に活躍するアーティスト、日比野克彦。
本年度、姫路市内で繰り広げられる「明後日のアートの学校」では、
朝顔の育成を通じて、人や地域間のコミュニケーションを促す
「明後日朝顔プロジェクト」を軸とし、1999年より日比野克彦が
継続して行なっている6つのプロジェクトが展開中です。
「日比野克彦展『明後日のアート』」では、現在進行形のプロジェクトと
ともにこれらの「種」となった1980年代、1990年代の作品を紹介し、
「アーティスト、日比野克彦」の全貌に迫ります。
現代の多様性を舞台とするアートプロジェクトは芸術の表現領域が
ジャンル横断し始めた80年代の熱量と90年代の社会変動
（経済的・自然災害・地球環境）を基盤としています。
その体験を振り返り、「明後日」につなげていきます。

©KATSUHIKO HIBINO

日比野克彦

1958年、岐阜市生まれ。東京藝術大学美術学部長、先端芸術表現科教授。岐阜県美術館館長。日本サッカー協会理事・社会貢献委員会委員長。1982年東京藝術大学美術学部デザイン科卒業、1982年日本グラフィック展大賞受賞。1984年、東京藝術大学大学院美術研究科修了。1986年、シドニービエンナーレ参加。1995年、第46回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館出品作家に選出される。2016年、芸術選奨文部科学大臣賞（芸術振興部門）受賞。地域の特性を生かし表現として生み出すアートプロジェクト「明後日新聞社文化事業部/明後日朝顔」（2003〜）「アジア代表日本」（2006年〜）「瀬戸内海底探査船美術館」（2010年〜）「種は船航海プロジェクト」（2012年〜）等。2015年からは障害の有無、世代、性、国籍、住環境などの背景や習慣の違いを超えた多様な人々の出会いによる相互作用を、表現として生み出すアートプロジェクト「TURN」を監修。2017年度より東京2020公認文化オリンピアードとして実施している。2017年度より「アート×福祉」をテーマに「多様な人々が共生できる社会」を支える人材を育成するプロジェクト「Diversity on the Arts Projects（通称：DOOR）」（2017年〜）を監修。

「明後日のアート」展関連イベント

※イベント参加には本展覧会の観覧券
（当日の半券可）の提示が必要となります。

明後日のアート展
オープニングトーク＆ワークショップ
「明後日のアート宣言」

日時＝9月19日[日] 14:00–16:00
場所＝美術館講堂、企画展示室
講師＝日比野克彦（本展アーティスト）
逢坂恵理子氏（国立新美術館長）
内容＝日比野克彦氏が「明後日のアート宣言」を発表。その精神をワークショップや対談を通して五感で感じ、考えます。
定員＝20名　参加料＝無料
応募締切＝9月5日[日]

子ども鑑賞会
日比野克彦の絵本『美』と展覧会鑑賞

日時＝9月25日[土] 14:00–15:00
場所＝姫路市立美術館講堂、企画展示室、前庭
内容＝「明後日のアートの学校」の先生たちによる日比野克彦氏の絵本『美』の読み聞かせと展覧会の鑑賞を行います。一緒に日比野克彦ワールドを体験しよう!
対象＝小学生以上　定員＝15組
参加料＝無料　応募締切＝9月10日[金]

明後日のアートの学校は、
授業のようで授業じゃない授業、
先生のようで先生じゃない先生、
生徒のようで生徒じゃない生徒、
始まっていないようで始まっている始まり、
終わっているようで終わっていない終わり、
私のようで私じゃない私、
他者のようで他者じゃない他者、
アートのようでアートじゃないようなアート、
明日のようで明日じゃない明後日を…そうぞうしていきます。
（校長のようで校長じゃない校長　日比野克彦）

明後日のアートの学校→町も海も山も寺も城も人もつながるプロジェクト

授業のようで
授業じゃない授業

明後日朝顔プロジェクト

明後日朝顔プロジェクト@摩尼殿
期間＝6月6日[日]－11月6日[土]
収穫祭@摩尼殿
開催日＝11月6日[土]
場所＝書寫山圓教寺 摩尼殿
参加料＝無料（別途、志納金500円が必要）

明後日朝顔プロジェクト@みんなの美術館・姫路
〜思い、記憶をつなぐ種をまく〜
期間＝7月17日[土]－11月27日[土]
場所＝姫路市立美術館　参加料＝無料

BEFORE20 AFTER21
20世紀以前と21世紀以降をつなぐTANeFUNeの物語

兵庫県立いえしま自然体験センター
夏のDAYイベント TANeFUNeワークショップ
開催日＝7月18日[日]、22日[木・祝]、23日[金・祝]、30日[金]、31日[土]／8月1日[日]、10日[火]、11日[水]、14日[土]、22日[日]
※いずれの日程も
①9:00–10:20　②10:30–11:50
③13:00–14:20　④14:30–15:50
の4部制
場所＝兵庫県立いえしま自然体験センター
参加料＝350円（センター宿泊の場合）
550円（日帰りの場合）
応募締切＝定員が埋まり次第終了

マイクロプラスチックから海洋環境を考えよう!
開催日＝9月18日[土]
場所＝兵庫県立いえしま自然体験センター
講師＝日比野克彦氏
シルバン・アゴスティーニ氏
（筑波大学下田臨海実験センター助教）
対象＝小学生以上（小学生は保護者同伴）
定員＝20名　参加料＝500円（交通費は別途必要）
応募締切＝9月10日[金]

明後日新聞社編集長と巡る、書寫山圓教寺「明後日朝顔」鑑賞登山

開催日＝9月23日[木・祝]／10月2日[土]、3日[日]、9日[土]、24日[日]、30日[土]
各回10:00から2時間程度
場所＝書寫山圓教寺
対象＝小学生以上（小学生は保護者同伴）
定員＝各回10組程度
参加料＝無料（別途、志納金500円が必要）
※ロープウェイで下山します。（片道600円）

MATCH FLAG PROJECT

開催日＝9月12日[日] 9:00–16:00
場所＝姫路大学
対象＝小学生以上（小学生は保護者同伴）
定員＝20名　参加料＝無料
応募締切＝9月10日[金]

HIBINO CUP

開催日＝10月23日[土] 9:00–16:30
場所＝大塩シーサイドパーク
対象＝小学生以上（小学生は保護者同伴）
定員＝40名　参加料＝無料
応募締切＝10月10日[日]

イベントの内容等は「明後日のアートの学校」公式HPページ（下記URLまたはQRコード）にてご確認ください。
https://www.city.himeji.lg.jp/art/0000016972.html

先生のようで先生じゃない先生

喜多直人
記録写真家（TANeFUNe二代目船長）

石川県金沢市生まれ。2007年「明後日新聞 金沢支局」編集長を務め、2013年から「種は船プロジェクト」にて二代目TANeFUNe船長となり宮城に移住。2019年「瀬戸内国際芸術祭」（秋会期）TANeFUNe船長として参加。

©TATSUHIKO WATANABE

渡辺龍彦
編集者

慶應義塾大学環境情報学部卒業後、2010年に（株）LITALICOに入社。障害者・児支援事業の運営、子育てWEBメディアの編集長を務めた。2019年に出版レーベル「遊と暇」を設立。2021年に東京藝術大学院美術研究科修了。同年創刊の、遊びの居場所を耕す雑誌『Tired Of』編集長。

柳雄斗
アーティスト

サポートスタッフ
奥山理子
みずのき美術館

東京藝術大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。車の中や福祉施設、ワンルームマンション、街中など、日常と非日常が交差する演劇表現を実践。2019年度から1年間「そんぼの家S 王子神谷（高齢者向け住宅）」滞在制作、2020年「そんぼの家S 嵯峨野」で「ハルマチ野外演劇プロジェクト」を展開中。

佐野桃和子
「明後日新聞社文化事業部」編集長

三重県生まれ。「明後日新聞社文化事業部」編集長。香川県粟島から姫路市家島諸島までのTANeFUNe航海の旅を体験取材。中学時代に、愛知県豊根村にて2年の山村留学をする。そこで、出会う人々や場所、問題を通して、芸術が境界を超えて人、モノ、場所を繋げる力を探求しはじめる。東京藝術大学美術学部先端芸術表現科在学中。

酒井直之
ダンサー

1991年、埼玉県生まれ。東京藝術大学大学院修了。パーキンソン病と共に生きる人々を主な対象とした芸術活動「Dance Well」講師。2012年から2019年まで〈Co.山田うん〉に所属。2020年より、春日部市を拠点にイベントの企画、映像配信を行う。その他、長谷川白紙、Salyu、を始めとするMVの振付出演、RADWINPS等の音楽ライブへの出演を行う。

古川乾提
庭師

1972年、愛知県生まれ。庭師。日本庭園修業を経て2001年愛知県で「m28e」を設立。2005年より「こよみのよぶね」に参加し2011年東日本大震災の年にリーダーを務めていたのがきっかけとなり「とうほくのこよみのよぶね」が始まる。古来より伝わる日本庭園の技術・文化を背骨にし、多岐にわたる活動を続ける。

明後日のアートのスペシャル・トーク・イベント

会期中、明後日のアートについて次のスペシャルゲストをお招きしてトークイベントを開催します！　日程とお申込みは、ホームページでお知らせします。

スペシャルゲスト（予定／五十音順）
北川フラム氏（アートディレクター）
平諭一郎氏（東京藝術大学特任准教授）
竹久侑氏（水戸芸術館現代美術センター 芸術監督）
平林恵氏（横尾忠則現代美術館 学芸課副課長）
森司氏（アーツカウンシル東京 ディレクター）ほか

※状況によって、オンラインでのトークイベントとなります。
※最新の情報は姫路市立美術館公式HP（https://www.city.himeji.lg.jp/art/）にてご確認ください。

「明後日のアート」&「明後日のアートの学校」
イベント参加方法

姫路市立美術館公式HPイベントページ（右記QRコード）よりお申し込みください。

※定員、締め切り日は各回によって異なります。
※申込多数の場合は抽選となります。
※参加可否は後日応募者全員にメールで通知します。

お問合せ先

姫路市立美術館　TEL 079-222-2288
Twitterはじめました!
Follow me!!

同時開催（姫路市立美術館）

「新収蔵品を中心に」
開催日＝9月11日[土]–11月7日[日]
場所＝コレクションギャラリー

國富奎三コレクション
「フランス近代絵画　モネからマティスまで」
場所＝常設展示室

その他のご案内

姫路文学館（TEL 079-293-8228）
- **企画展「姫路文学館の30年 ブンガクカンってなんだろう?」**
  会期＝8月28日[土]– 9月26日[日]
- **特別展「生誕100年記念　作家五味康祐展」**
  会期＝10月9日[土]–12月5日[日]

姫路市書写の里・美術工芸館（TEL 079-267-0301）
- **特別展「兵庫県工芸美術作家協会　姫路展」**
  会期＝9月11日[土]–10月24日[日]
- **秋季特別展**
  「日本やきもの旅—おすすめ窯元めぐり」
  会期＝10月30日[土]–12月24日[金]

オールひめじ・アーツ&ライフ・プロジェクト
All Himeji Arts & Life Project

本プロジェクトは姫路市立美術館が、アートのプラットフォームとして、海・島・山・森林・田園、ひめじ全域が擁する地域文化をアートの力で市民ライフの糧として再発見するとともに、新たな姫路の魅力を国内外に発信するアートプロジェクトです。2021年度から2024年度までの4カ年をかけて各年ごとに、日比野克彦氏、杉本博司氏、アート集団チームラボ、隈研吾氏、中谷芙二子氏によるプロジェクトが展開されます。
◉日比野克彦デザインによるロゴマークを冠した山陽電車が、姫路–梅田間を走ります!

交通のご案内（姫路市立美術館）

- JR・山陽電車姫路駅より神姫バス⑦⑧乗り場から［3］［4］［5］［61］［62］［64］［81］［82］［84］［86］乗車約8分、「姫山公園南・医療センター・美術館前」下車すぐ。
- 姫路駅より徒歩約20分（姫路城東隣）

※上記路線バスのほか、姫路城ループバスも停車します(停留所は「美術館前」、土日祝のみ運行)。
※美術館には駐車場がありませんので近隣の駐車場（有料）をご利用ください。

ご来場の皆さまへ（新型コロナウィルス感染拡大防止のために）

マスクを着用の上、検温、手指消毒にご協力ください。
発熱等の症状がある方はご来場をお控えください。
新型コロナウイルス感染症の拡大状況により実施内容の変更や入場制限等を行う場合があります。